Oracle® Enterprise Performance Management System

リリース 11.1.2.3.000

Readme

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE MANAGEMENT SYSTEM

目次

目的 2
このリリースでの新機能 2
サポートされているプラットフォーム 3
サポートされている言語 4
サポートされているこのリリースへのパス 4
このリリースで修正された問題 5
既知の問題 7
ドキュメントの更新事項 28
ドキュメントのフィードバック 28
アクセシビリティの考慮事項 29

目的

このドキュメントには、Oracle Enterprise Performance Management System のこのリリースに関する重要な最新情報が含まれています。EPM System をインストールする前に、この Readme をよく確認してください。

このリリースでの新機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 からアップグレードする場合、これらのリリース間で追加された新しい機能を確認するには Cumulative Feature Overview ツールを使用します。このツールではユーザーの現在の製品、現在のリリース・バージョン、およびターゲットの実装リリース・バージョンを識別できます。1 回のクリックで、ツールは迅速に、現行リリースとターゲット・リリース間で開発された製品機能の一連の高度な説明をカスタマイズして生成します。このツールはこちらにあります:

https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1

11.1.2.3 の新機能:

- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータを使用して EPM Oracle インスタンスを削除できます。たとえば、インスタンスを削除することで配置をスケール・ダウンする場合や、誤って構成されたインスタンスを削除する場合などです。
- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition をインストールおよび構成している場合は、Oracle Data Integrator は自動的にインストールおよび構成されます。Oracle Data Integrator のデータベースは FDMEE と同じデータベース内にあり、Oracle Data Integrator エージェント・アプリケーションは FDMEE と同じ JVM に配置されます。
- 迅速な配置プロセスでは、EPM System コンポーネントと Oracle データベースのインストールおよび構成にシンプルなウィザードが使用されるようになりました。
- 標準配置には Oracle Essbase Studio、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management、FDMEE および Oracle Hyperion Strategic Finance が含まれるようになりました。
- 分散環境での構成をシンプル化するために、Oracle HTTP Server を共有ドライブの場所に構成できます。
- Microsoft Windows Installer (MSI)クライアント・インストーラが Oracle Hyperion EPM Architect、Strategic Finance、Oracle Hyperion Interactive Reporting および Oracle Hyperion SQR Production Reporting に提供されるようになりました。
- Windows の「スタート」メニューと「サービス」コントロール パネルが個別の製品インスタンスを反映するようになりました。
- EPM System 製品は、Oracle Essbase Server、UNIX ベースのコンポーネント、および Windows ベースの Java Web アプリケーション(Oracle Hyperion Financial Management の全コンポーネント、Strategic Finance の全コンポーネント、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management の全コンポーネント、Performance

Management Architect 次元サーバーおよび Essbase 統合サーバーを除く)に対する垂直スケールをサポートしています。

- ドキュメント・スイートは、推奨配置メソドロジをより反映するように再編成されています。Oracle Enterprise Performance Management System Installation Start Here には、パスに基づいて使用する配置パスおよびガイドが示されています。
- 新しいログ分析ツールは、該当するログ・ファイルを分析して問題の原因を特定するのに役立つコマンド・ライン・ユーティリティです。このツールではログ・ファイル分析が自動化されるため、システムの問題を特定するために製品ログ・ファイルを検索およびスキャンする必要はありません。
- Oracle Hyperion Financial Close Management が SOA クラスタをサポートするようになりました。
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace が Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 11.1.1.7 と統合されるようになりました。
- LDAP ベースの URL を使用して、データベース・リポジトリにアクセスできます。
- EPM System コンフィグレータの一機能であるポート・マネージャは、ポートが使用中かどうかを確認するために Oracle Hyperion Shared Services レジストリを使用してポートの一意性を管理します。ポート・マネージャでは、まだ使用されていないポートが常に表示されるようにポートが自動的に増分されます。
- リリース 11.1.2.3 では、以前の 11.1.2.x リリースからの WebSphere 構成に対するメンテナンス・リリースの適用をサポートしています。
- リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、以前から使用可能な MOBI ファイルと、EPUB ファイルの 2 つのモバイル・フォーマットで使用できるようになりました。EPUB ドキュメント・ファイルは、すべての Apple モバイル・デバイス(iPad、iPhone および iPod Touch)でサポートされています。EPUB ファイルは多くのモバイル・デバイスでサポートされていますが、Apple モバイル・デバイスでのみ動作保証されています。その他のデバイスは今後、動作保証される予定です。

サポートされているプラットフォーム

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix でスプレッドシートの形式で入手できます。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html

サポートされている言語

EPM System 製品でサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブでスプレッドシートの形式で入手できます。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html

サポートされているこのリリースへのパス

EPM System は、次のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順については、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表 1　サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース 11.1.2.3 へ
11.1.2.x	リリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用します。 Financial Close Management の場合、リリース 11.1.2.1 および 11.1.2.2 からのメンテナンス・リリースの適用のみがサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 11.1.1.0.x から 11.1.1.3.x	リリース 11.1.1.4 にメンテナンス・リリースを適用してから、リリース 11.1.2.3 にアップグレードします。
リリース 9.3.3.x	リリース 11.1.2.2 にアップグレードしてから、リリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用します。
複数のリリースが含まれている環境。1 つの Oracle Hyperion Shared Services のインスタンスが含まれている環境、または 2 つの Shared Services のインスタンスが含まれている環境	Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。

注意: リリース 9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6、9.3.1.7 を除く)または 11.1.1.x から始める場合、まずリリース 11.1.1.3 にアップグレードしてから、リリース 11.1.1.4 にメンテナンス・リリースを適用し、リリース 11.1.2.3 にアップグレードすることをお薦めします。前のリリースから開始する場合、開始するリリースからのアップグレードを直接サポートしている最高レベルのリリースにアップグレードすることをお薦めします。

Essbase と Shared Services との間のセキュリティの同期は、リリース 9.3.1.4.1 以降の Essbase リリース 9.3 では削除されていました。ただし、Essbase および Shared Services リリース 11.1.1.3 では、セキュリティ情報は同期されます。このため、Essbase リリース 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6 または 9.3.1.7 を使用している場合、まずリリース 9.3.3 にすべての製品をアップグレードしてから、リリース 11.1.2.2 にアッ

プグレードし、リリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用することをお薦めします。

このリリースで修正された問題

この項では、リリース 11.1.2.3.000 で修正された不具合が含まれます。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、問題修正ファインダを使用します。このツールでは、ユーザーが所有する製品と現在の実装リリースを識別できます。1 回のクリックで、ツールは迅速に、関連付けられたプラットフォームおよびパッチ番号を使用して修正済み不具合の説明レポートをカスタマイズして生成します。このツールはこちらにあります:

https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1

- 6689418 -- Linux: コンソール・モードで製品を構成する場合、デフォルトではすべての製品が選択されているとはかぎりません。
- 9144638 -- EPM System コンフィグレータを実行すると、SSL リスニング・ポートが、すべての配置済 Web アプリケーションについて事前定義され、有効になります。EPM System コンフィグレータでは、自動 SSL 構成が行われないため、ポートは無効の状態である必要があります。
- 9402134 -- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラのサマリー・ウィンドウで、「構成」ボタンをクリックしても EPM System コンフィグレータが起動しません。
- 9550582 -- EPM System コンフィグレータを不十分なデータベース権限で使用していると、データベース構成(Shared Services およびレジストリ)は成功しますが、他のすべてのタスクは失敗し、問題のデバッグに役立つログの一部が `EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config` に含まれません。
- 9689601 -- Financial Management を配置する際、次のエラーを受け取る場合があります: `"不足しているテンプレートをインストールしてください: Oracle JRF WebServices Asynchronous services"`
- 9969347 -- EPM System コンフィグレータを起動して、既存のドメインを選択し、再構成するコンポーネントを選択した場合、間違ったデータベース接続情報が表示されます。
- 10030819 -- Financial Management Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理 Web サービスを使用するため、手動で Web Services Extensions 3 をインストールする必要があります。
- 10074763 -- 分散環境では、Shared Services が、Administration Services がインストールされているマシン以外のマシンにインストールされており、リリース 11.1.1.3 または 11.1.2.0 をリリース 11.1.2.2 にアップグレードすると、初めてログインを試みたときに管理サービス・コンソールが起動しません。
- 10388049 -- Essbase のライブラリ・パスに `LIBJVM` のパスを含める必要があります。
- 11073844 -- Oracle Hyperion Provider Services データが読取り専用のマップ済ネットワーク・ドライブにある場合、EPM System コンフィグレータは正しく機能しません。

- 11803646 -- EPM System コンフィグレータで、登録済の Financial Management クラスタが検出されません。
- 11813179 -- Oracle Hyperion Foundation Services および Financial Management のインストールおよび構成後、アプリケーション作成がエラーにより失敗する可能性があります。
- 11834645 -- リリース 11.1.1.3 から Essbase をアップグレードしている場合、Essbase サーバー構成に失敗します。
- 11865836 -- リリース 11.1.2.0 からメンテナンス・リリースを適用する際、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 診断が、複数ボックス構成中に Essbase Java API チェックが失敗したことを示す場合があります。これはレポートの問題で、通常は、ソフトウェアの機能の問題はありません。
- 12674957 -- EPM System 製品のあるマシンで EPM System インストーラを使用している場合、スワップ領域を設定する自動モードは使用できません。
- 12768456 -- WebSphere で、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition、Provider Services、HPSAlerter、HPS WebReports、Oracle Hyperion Web Analysis、Profitability and Cost Management、Financial Management ADF および Oracle Hyperion Disclosure Management Web アプリケーションが `deployment.xml` ファイルのメタデータ完了オプションを選択しません。(`deployment.xml` ファイルは、各アプリケーションの `.ear` ファイルのルート・レベルにあります。)
- 13113884 -- Essbase Studio リリース 11.1.1.3 からリリース 11.1.2.2 にアップグレードしている場合、Oracle Hyperion Shared Services Console の既存の Essbase Studio エントリが上書きされず、かわりに新しいエントリが作成されます。
- 13455407 -- WebLogic を使用し、複数の製品を単一の管理対象サーバーに配置して、単一の管理対象サーバーの Web アプリケーションを使用する製品をアンインストールする場合、単一の管理対象サーバーのすべての製品が失われます。
- 13698063 -- Oracle Configuration Manager では複数のコマンドを同時に実行できません。
- 13779036 -- リリース 11.1.1.3 からアップグレードされる Essbase アプリケーションを検証する場合、「アプリケーション・サーバー`''st407:1423''`が無効です。`Shared Services`に登録されていません。」エラー・メッセージが表示される場合があります。
- 13861895 -- Planning アプリケーションを 64 ビット・システム上の WebSphere に対して配置する際、`java.lang.UnsatisifiedLink Error` がデータ・ソースの作成時に表示されます。
- 13888056 -- 製品クライアントは、メンテナンス・リリースの適用後は使用できません。
- 13880987 -- 自動化された Financial Management 統合タイプの検証が複数ノード環境でハングします。
- 13897272 -- WebSphere 7.0.0.19 および IBM HTTP Server 7.0.0.19 をクラスタ環境で使用する際、IBM HTTP Server を起動すると、次のエラーが表示されます:`Syntax error on line 32 of C:/Program Files/IBM/HTTPServer/conf/`

```
HYSL-Websphere-autogenerated.conf: Invalid command 'Header',
perhaps misspelled or defined by a module not included in the
server configuration
```

- 13908632 -- `CloneID` プロパティが `plugin-cfg.xml` 内になく、クラスタ化された Web アプリケーションに対してロード・バランシングが正しく構成されていません。結果として、クラスタ化された EPM System Web アプリケーションが正しく機能していません。
- 14037250 -- WebSphere 7.0.0.21 の使用時に EPM Workspace にログインできません。
- 14605565 -- EPM System リリース 11.1.2.1 および 11.1.2.2 で、Essbase Studio サービスのみをインストールすると、`EPM_ORACLE_HOME/common/essbaseJavaAPI` フォルダが欠落します。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

全般

- 6889688、8291337 -- インストールの十分な空きディスク領域がない場合、EPM System インストーラは、「要約」ウィンドウに失敗しました。領域またはメモリーの問題を確認してくださいというエラー・メッセージが表示されます。

  回避策: Oracle Enterprise Performance Management System Installation Start Here に記載されている領域の 2 倍の領域を確保します。

- 7230134 -- ホスト名にアンダースコアを使用した場合、不適切な名前のホストで実行されているサービスの起動やサービスへの接続時にエラーが発生する可能性があります。

  回避策: ホスト名に英数字、ダッシュ(-)またはドット(.)文字を使用します。

- 7698703 -- EPM System コンフィグレータの実行中に「取消し」をクリックすると、このアクションは取消しできません。というエラー・メッセージが表示される場合があります。

  回避策: コマンドライン・ウィンドウをシャットダウンするか、Windows タスク マネージャを開き、Java プロセスを終了します。

- 8284282 -- EPM System コンフィグレータでは、データベースが実行中でなければ、データベース情報の入力を要求されませんん。

  回避策: EPM System コンフィグレータを起動する前に、データベースが実行されていることを確認します。

- 8599271 -- IIS リスニング・ポートが変更されると、Web サーバー構成タスクには、デフォルト・ポートが表示されます。

  回避策: Web サーバー構成タスクに表示されるポートを無視します。リスニング・ポートが正しく変更されます。

- 8807229 -- JDBC 確認の SSL サポート時、EPM System コンフィグレータから間違ったエラー・メッセージが表示されます。

  回避策: EPM System コンフィグレータを再起動します。

- 9006776 -- AIX: EPM System を最初の Oracle 製品としてマシンにインストールする場合、抽出されたアセンブリ・フォルダ `rootpre` にある `rootpre.sh` を root ユーザーで実行し、Oracle 製品の中央インベントリを作成する必要があります。

- 9115765 -- UNIX: EPM System コンフィグレータを実行し、データベースのユーザー名を空白のままにして「次へ」をクリックし、戻ってユーザー名を入力しなおすと、Shared Services レジストリ・テーブルが作成されません。

  回避策: ユーザー名を入力しなおす前に EPM System コンフィグレータを終了します。

- 9123899 -- EPM System コンフィグレータを実行してデータベースの構成オプションを選択する際、データベース名に 2 バイト文字が含まれる場合、EPM System コンフィグレータが失敗します。

  回避策: ダブルバイト文字を含まない名前にデータベース名を変更します。

- 9364854 -- EPM System 製品の構成前に EPM System コンフィグレータが異常終了した場合、EPM System コンフィグレータのステータスが「完了」と表示されます。

  回避策: EPM System コンフィグレータを再実行して、オプションをすべて選択します。

- 9388673 -- いくつかの製品について EPM System コンフィグレータの実行が正常に終了した後、EPM System コンフィグレータを再度実行すると、構成済の親製品のステータス・チェックボックスが選択されたままになっています。

  回避策: 親製品が構成用に選択されていて、サブタスクが正常に構成されたことが表示されている場合、「次へ」をクリックします:

  - 実行するタスクがないことを示すポップアップ・メッセージが表示される場合、親ステータスを無視し、ウィンドウを閉じます。
  - EPM System コンフィグレータを続行する場合、Shared Services 登録や内部事前構成タスクなどの実行すべきタスクが、実際には未完で隠されていることになります。

- 9591524 -- EPM System インストーラで「構成」を押しても、EPM System コンフィグレータが起動しません。

  回避策: 「スタート」メニューまたはコマンドラインから EPM System コンフィグレータを起動します。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

- S9668584 -- Solaris 環境では、インストールが完了するのに十分なスペースがなくても EPM System インストーラが起動されますが、インストールはすべての製品について失敗します。

回避策: ディスク領域要件の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

- 9730352 -- WebLogic 管理コンソールの「テスト」ページが機能しません。
- 11856210 -- システム・ロケールとしてトルコ語を使用するサーバーがホストである場合、EPM System は機能しません。

  回避策:ホスト・マシンのロケールを英語にリセットします。
- 12720360 -- EPM System コンフィグレータの Oracle Hyperion Reporting and Analysis タスク・ペインで、"$"記号が UNC パスで受け入れられません。

  回避策: UNC パスで"$"を使用しないでください。
- 13558752 -- IIS を Web サーバーとして使用する場合、中央の Oracle ダウンロード場所から提供されるオンライン・ヘルプはサポートされません。

  回避策: オンライン・ヘルプをインストールおよび構成して、ローカルに実行します。Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide のインストールおよび構成のオンライン・ヘルプを参照してください。
- 13646182 -- AIX プラットフォームで、ネイティブ WebLogic ライブラリが効果的に使用されていません。

  回避策:

  1. システムの `ARG/ENV` リスト・サイズを 256 に増やします。

     たとえば、AIX 5.3 の場合:

     ```
     bash-3.00$ lsattr -El sys0 -a ncargs
     ncargs 6 ARG/ENV list size in 4K byte blocks True
     bash-3.00$ chdev -l sys0 -a ncargs=256
     bash-3.00$
     ```

     ルート・ユーザーで上記のコマンドを実行する必要があります。

     - `lsattr -El sys0 -a ncargs` は、既存の `AGR/ENV` リスト・サイズ値を示します。
     - `ncargs 6 ARG/ENV list size in 4K byte blocks True` は、AIX 5.3 のデフォルト値が 6 であることを示します。
     - `chdev -l sys0 -a ncargs=256` は、値を 256 に増やします。
  2. `<EOI>/bin/deploymentScripts` に移動して、`setCustomParams*.sh` ファイルを次に追加します:

     `'-Djava.library.path='JVMOptions native WebLogic libraries`

     例:

     ```
     <path_to_middleware_home>/patch_wls1036/profiles/default/
     native:<path_to_middleware_home>/wlserver_10.3/server/native/
     aix/ppc64
     ```

- 13698740 -- 前のリリースからアップグレードする場合、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide に記載されている再ホスティングされた環境への参照を更新する手順を実行するとき、次のスクリプトを実行して、前のリリースの Essbase サーバーと Shared Services レジストリの新しい論理クラスタ名のマッピング情報を格納する必要があります。

  ```
  updateEssbaseServer oldEssbaseServerHost ClusterNameForNewHost
  ```

  ここで、`oldEssbaseServerHost` は完全修飾 serverName ポートです。

  Oracle Hyperion Financial Reporting または Web Analysis の Essbase サーバーの参照を更新している場合、レポートの設定に使用された各形式の `oldEssbaseServerHost` を使用して、`updateEssbaseServer` スクリプトを実行する必要があります。レポートの設定のための接続に使用されたサーバー名形式が不明のない場合、host、host: port、host.domainName、host.domainName.com:port、localhost など、`oldEssbaseServerHost` 名のすべての可能な組合せに対してスクリプトを再実行します。

- 14112567 -- 十分な空きディスク領域があるマシンに EPM System をインストールする際に、インストールの WebLogic の部分がディスク・スペース不足ですというエラー・メッセージとともに失敗します。

  回避策:

  1. `MIDDLEWARE_HOME/EPMSystem11R1/tmp/wl_stage` にある `wl10_install.sh` スクリプトを編集します。
  2. 次のように始まる行を検索します:

     ```
     /scratch/myuser/Oracle/Middleware/EPMSystem11R1/../jdk160_29/
     bin/java @ $TMP_ARGS -Duser.language=en_US -Xms512m -
     Xmx1024m...
     ```

  3. 引数`-Dspace.detection=false` を追加して行が次のように始まるようにします:

     ```
     /scratch/myuser/Oracle/MIDDLEWARE_HOME/EPMSystem11R1/../
     jdk160_29/bin/java @ $TMP_ARGS -Duser.language=en_US -
     Dspace.detection=false -Xms512m -Xmx1024m
     ```

  4. `w110Pinstall.sh` スクリプトを実行します。

     `MIDDLEWARE_HOME/EPMSystem11R1/diagnostics/logs/install/wl_install.log` の最終行に、インストールが成功したことが示されます。この時点で、WebLogic Server がインストールされ、EPM System の構成を続行できます。

- 14689942 -- Planning RMI Server を複数のインスタンスにインストールする場合、1 番目のインスタンスの RMI ポート番号が、2 番目のインスタンスの Planning RMI ポート・パネルにコピーされます。レジストリ・レポートを生成する際、レジストリには 1 番目のインスタンスの Planning RMI ポートに関する情報のみが含まれます。

  回避策: Planning RMI ポート・パネルのポート番号が以前に使用していたポートと重複している場合、続行する前に一意のポートを入力します。

- 15953960 -- EPM System コンフィグレータのポート・チェックで、Financial Management DME リスナーに使用可能なポートがチェックされません。その結果、ポートが重複してしまう場合があります。

  回避策: DME リスナー・ポートを表示する際、EPM System コンフィグレータ・パネルに一意のポート番号を入力します。

- 16288472 -- EPM System 製品を構成する際、`TNS_ADMIN` 環境変数が Windows オペレーティング・システム変数に追加されます。場合によっては、この変数が Windows オペレーティング・システムで適切に取得されません。

  回避策: ログオフしてから、アクティブな Windows ユーザー・セッションに再度ログオンします。

- 16373763 -- EPM System コンフィグレータの「スタート」メニュー・アイテムが、EPM アンインストーラ・ダイアログ・ボックスを開いています。

  回避策: `EPMSystem11R1/common/config/11.1.2.0` and launch `configtool.bat (.sh)` 下のファイル・システムに移動します。

- 16395643 -- データベースが指定された SQL Server インスタンスである場合、配置レポートに不正確なデータベース接続情報が表示されます。

  回避策:

  1. Shared Services Server で、`EPM_ORACLE_INSTANCE/bin` でコマンド・プロンプトを開きます。
  2. コマンド- `epmsys_registry view database_conn` を実行します。
  3. リストされた各コンポーネントについて、ID および `dbJdbcUrl` プロパティのメモを取り、次のコマンドを実行します:

     ```
     epmsys_registry addProperty #<ID from step 2>/@dbName <name of
     the database from the property 'dbJdbcUrl' of the database
     component>
     ```

     ```
     epmsys_registry addProperty #<ID from step 2>/@dbPort <value
     of the port from the property 'dbJdbcUrl' of the database
     component>
     ```

     注： UNIX システムでは、'#'の前に'\'を付けます。

- 16568505 -- CASSecurity などの一部のプロセスでは、Windows サービスがすべて停止した後も実行中のままになります。

  回避策: メンテナンス・リリースを実行する前にすべてのプロセスが停止していることを確認します。

- 16569303 -- 現在、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の Oracle Database の使用に関する項では、EPM System インストーラでは Oracle Database クライアントがマシンで必要な場合は自動的にインストールされると記述されていますが、インストールは Windows マシンのみで行われます。

Oracle HTTP Server

- 9023087 -- EPM System インストーラで、Oracle HTTP Server (OHS)を合計物理メモリーが 1015MB のマシンにインストールできません。

  回避策: 合計物理メモリーが 1024MB あることを確認します。

- 9284682 -- Windows 2003 SP2 64 ビットで、EPM System コンフィグレータでの Oracle HTTP Server (OHS)の起動に失敗します。起動に失敗するのは、Oracle HTTP Server でサポートされるのが Oracle データベース・クライアント・バージョン 11 のみであるためです。

  回避策: 10.2.0.4 以上の Oracle データベースを使用する場合、10.2.0.2.21 以上の Oracle データベース・クライアントを使用する必要があります。

- 9480396 -- EPM System インストーラで Oracle HTTP Server (OHS)をインストールできない場合、Oracle HTTP Server の再インストール・オプションは使用できません。

  回避策:Oracle HTTP Server および EPM System インストーラのログ・ファイルを調べなおし、Oracle HTTP Server をインストールできなかった原因を特定します。

  注意: Oracle HTTP Server のインストールや構成が完了しない一般的な原因は、Oracle HTTP Server マシンが前提条件を満たしていないことです。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の Oracle HTTP Server のインストールの前提条件に関する項を参照してください。

アップグレード

一般的なアップグレードの問題

- Business Rules を使用できないため、メンテナンス・リリースの適用またはリリース 11.1.2.3 へのアップグレードを行う場合に、旧リリースの Business Rules を使用しているときは、リリース 11.1.2.3 の Oracle Hyperion Calculation Manager ルールに移行する必要があります。ビジネス・ルールを Oracle Hyperion Calculation Manager ルールに正常に移行するために、インストールおよび構成の前に実行が必要な前提条件については、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のビジネス・ルールのメンテナンス・リリースおよびアップグレードのインストールの前提条件に関する項を参照してください。

- 10054391 -- システム・フォルダ `c:\windows\system32` へのパスがフル・パスでハードコードされていない場合、EPM System コンフィグレータは実行されません。

  回避策: `C:\WINDOWS\system32` をパスに追加するか、すべてのパス変数を置換します。

- 16242985 -- ポーランド語で、リリース 11.1.2.2 からリリース 11.1.2.3 にメンテナンス・リリースを適用した後、Foundation 下の「スタート」メニュー・パスに `EPM_ORACLE_INSTANCE` が追加されます。

  回避策: `EPM_ORACLE_INSTANCE`/Foundation メニュー・オプションの下に移動して他のメニューを検索します。

- 16494372 -- リリース 11.1.1.4 からリリース 11.1.2.3 へアップグレードする際、リリース 11.1.2.3 の構成中に `admin` ユーザーの名前を変更するとデータが失われる可能性があります。

  回避策: アップグレードが完了するまで `admin` ユーザーの名前を変更しないでください。

- 16612510 -- リリース 11.1.2.0 またはリリース 11.1.2.1 からメンテナンス・リリースを適用する場合、あらゆる ODBC 接続が失われます。

  回避策: `ARBORPATH/bin` に移動して、`EPM_ORACLE_HOME/common/Merant/ODBC-64/7.0/odbc.ini` にリンクされた既存の `.odbc.ini` ファイルを削除します。次に、`EPM_ORACLE_HOME/common/Merant/ODBC-64/6.0/odbc.ini` にリンクされた新しい `.odbc.ini` ファイルを作成します。

EPM Workspace のアップグレード

- 9735278 -- リリース 11.1.2.0 からリリース 11.1.2.3 へのメンテナンス・リリースを適用するとき、新しいロケールはサポートされるロケールのリストに手動で追加する必要があります。EPM Workspace リリース 11.1.2.2 からは、新しいロケールはノルウェー語とポーランド語です。

  回避策: 新しい EPM Workspace のロケールを追加するには、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace サーバー設定」の順に選択し、「サポートされているロケール」ボタンをクリックして、必要なロケールを追加します。

Essbase のアップグレード

- 10010699、11735177 -- Oracle Essbase Administration Services を以前のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードするとき、不適当なアップグレードによるホスト名の変更のために、パーティション定義が無効になる場合があります。これは、ホスト名/Essbase クラスタ名に変更がある場合に起こります。パーティションの修復を試みると、ホスト名は新しいホスト名か Essbase クラスタ名のいずれかに変わりますが、ユーザー情報が変更されている場合は、更新されません。

  回避策: `MaxL` コマンド `alter partition...` を使用します。完全な構文は、Oracle Essbase Technical Reference を参照してください。

- 11739475 -- Solaris プラットフォームの Essbase アップグレード中、ステージング・ツールがネットワーク上の `app` フォルダをコピーする場合、`-rwx--l---<FILE_NAME>`などの権限に-l ビットを使用したアプリケーション・ファイルがコピーされません。通常、-l ビットを持つアプリケーション・ファイルは、.apb、.db および.ddb ファイルです。

回避策:「マウント済またはマップ済ファイル・システムにファイルを自動的にコピーします」オプションを選択しないでください。「ファイル転送の手順のリストを取得します」オプションを選択してから、tar ユーティリティを使用してファイルを手動で転送する必要があります。

- 11774029 -- Essbase をリリース 11.1.1.4 からリリース 11.1.2.3 にアップグレードすると、管理者のみが Essbase に対してプロビジョニングされ、その他のユーザーはプロビジョニングされません。したがって、管理者のみが Essbase にログインできます。

  回避策: Shared Services がレプリケートされている追加のボックス(Shared Services がインストールされている初期ボックス以外)で、Foundation Services 用のデータベースを構成し、他の製品、特に Essbase を構成する前に、「旧リリースからのデータのインポート」タスクを実行します。

- 11789346 -- Essbase 再ホスティング・ツールは、ソースまたはターゲットが、論理名がサポートされていない古いバージョンの Essbase にある場合、Essbase リリース 11.1.2.1 インストールでパーティションを修正しようとします。これは無効なパーティションとなります。

  回避策: ソース・サーバーとターゲット・サーバーの両方をアップグレードするか、アップグレート前にパーティション定義を削除します。

- 13532945 -- :リリース 11.1.2.1 からリリース 11.1.2.3 へのメンテナンス・リリースの適用後、EPM System コンフィグレータが Administration Services の既存の `DATABASE_CONN` ノードを検出しません。

  回避策: EPM System コンフィグレータで、「新規作成」を選択して、リリース 11.1.2.0/11.1.2.1 の Administration Services データベース・ログイン情報を指定します。

- 11797646 -- 日本語の Oracle Essbase Studio 環境のアップグレードの場合、「再ホスティングされた環境への Essbase Studio の参照の更新」のキューブ・リンケージの手順を実行するとき、現行の Essbase Studio サーバーにリンクするためにすべての Essbase アプリケーションおよびデータベースを更新オプションを選択すると、エラーが発生します。

  回避策: Oracle Essbase Studio User's Guide の個々のキューブのキューブ・リンケージの更新に関する項で説明されているように、キューブごとにキューブ・リンケージを個別に更新します。

- 11887058 -- リリース 11.1.1.4 からアップグレードする際、Solaris において `-console` モードで `configtool.sh` を実行すると、以前の Administration Services データベースが要求されません。

  回避策: `-gui` モードまたは`-silent` モードで `configtool.sh` を実行します。

- 16520430 -- リリース 11.1.2.1 からリリース 11.1.2.3 へのメンテナンス・リリースの適用後、リリース 11.1.2.1 で作成されたカタログおよびデータ・ソース DSN が EIS コンソールで表示されません。

回避策: リリース 11.1.2.3 へのアップグレード後、ODBC 6.0 で作成された OBDC.INI ファイルのデータ・ソース DSN をコピーして、ODBC 7.0 の OBDC.INI ファイル内に貼り付けます。

Financial Close Management のアップグレード

- 16312335 -- メンテナンス・リリースを適用して、Microsoft SQL Server を使用している場合は、既存のソフトウェア(SOA コンポーネント)を更新した後で、SOA スキーマ(PSA コマンド)を更新する前にパッチ番号 16400937 を適用する必要があります。

- 16568956 -- リリース 11.1.2.3 より前のリリースから Financial Close Management をアップグレードする場合、EPM System 11.1.2.3 のインストール後に次の EPM System のパッチを適用します:

  Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラ: 16568956

Financial Management のアップグレード

- 10223268 -- EPM System コンフィグレータを使用して Financial Management DCOM ユーザーを構成するとき、パスワードが Windows 2008 の要件を満たさなければ構成は失敗します。

  回避策: Windows のセキュリティ標準に準拠したパスワードを使用します。

- 11794181 -- リリース 11.1.1.4 からリリース 11.1.2.3 へアップグレードすると、リリース 11.1.1.4 で作成された Financial Management アプリケーションをアプリケーション・ライブラリから表示することはできますが、開くことはできません。

  回避策: `<EPM_ORACLE_HOME>/products/FinancialManagement/Server` にある `Application Upgrade.exe` (32 ビット・マシン用)または `Application Upgrade_x64.exe` (64 ビット・マシン用)を実行します。

- 15878513 -- 以前のリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードするとき、カスタム次元別名で指定された"&"文字がスキーマ・アップグレード・ユーティリティによって変換されません。

  回避策: カスタム次元の名前または別名の"&"文字へのあらゆる参照を削除します。

Financial Reporting のアップグレード

- 16619309 -- リリース 11.1.2.3 に再ホストしてアップグレードする場合、Financial Reporting レポートのデータベース接続が正しく更新されない場合があります。

  回避策: 古いデータベース接続サーバーに関連付けられたポート番号がある場合は、アップグレード・プロセス中に `EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/upgrades/UpdateEssbaseServer.bat` または `EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/upgrades/`

UpdateEssbaseServer.sh を実行する際、Financial Reporting の両方の書式を次のように指定します:

```
UpdateEssbaseServer <OldServerName__Port__PortNumber>
<NewClusterName>
```

```
UpdateEssbaseServer <OldServerName:PortNumber> <NewClusterName>
```

Profitability and Cost Management のアップグレード

- 10007895 -- Oracle Hyperion Profitability and Cost Management では、リリース 11.1.1.4 からアップグレードするとき、EPM_ORACLE_INSTANCE 変数が設定されていないと、アップグレードは失敗する場合があります。

  回避策: upgrade_reregister_ps1.bat|sh スクリプトを実行する前に、EPM_ORACLE_INSTANCE 変数が設定されていることを確認します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

Shared Services のアップグレード

- 10409522 -- どのリリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードする場合でも、移行がサポートされているのは、SunOne LDAP サーバーに DN または nsuniqueid、OID サーバーに OrclGUID、Active Directory サーバーに ObjectGUID、Novell eDirectory サーバーに GUID、または IBM LDAP Directory サーバーに ibm-entryUUID が設定されている ID 属性に対してのみです。ID 属性がこれら以外の値に設定されている場合は、まずサポートされている ID 属性に移行する必要があります。

  注意: 現在のところ ID 属性を移行する方法はありませんが、オラクル社ではリリース 9.2.1、9.3.3 および 11.1.1.3 用のパッチを提供する予定です。サポートされていない ID 属性を使用している場合は、現行リリースのパッチを適用し、ID をサポートされている属性に移行してから、リリース 11.1.2.3 にアップグレードしてください。

Web Analysis のアップグレード

- 11857614 -- Web Analysis では、リリース 11.1.2.0 からリリース・メンテナンスを適用するとき、Web Analysis Web アプリケーションの「プロパティ - 関連コンテンツ」タブに移動して、手動で RelatedContent.Server.URL.0 パラメータを次のように変更する必要があります:

  ```
  /raframework/browse/listXML?sso_token=$SSO_TOKEN$
  ```

アンインストール

- 番号なし-- 複数のマシンで EPM System コンフィグレータの 2 つのインスタンスを同時に実行しないでください。EPM System コンフィグレータの 1 つのイ

ンスタンスのデータが、もう 1 つの EPM System コンフィグレータのインスタンスで実行された構成を上書きする可能性があります。

- 7376954 -- Shared Services レジストリ・データベースが削除されると、EPM System コンフィグレータにはデータベース構成パネルが表示されません。

  回避策: `reg.properties` ファイルを `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/config/foundation/11.1.2.0` から削除し、EPM System コンフィグレータを再度実行します。

- 7489828 -- UNIX: EPM System アンインストーラでは、製品のインストール場所にある一部のファイルが削除されません。

  回避策: 上書きインストールを実行します。

- 7492265 -- EPM System コンポーネントをアンインストールすると、EPM System アンインストーラによって EPM System 製品もアンインストールされます。たとえば、Interactive Reporting をアンインストールすると、Financial Reporting と Web Analysis の配置および Financial Reporting サービスが削除されます。

- 9068958 -- EPM System アンインストーラが WebLogic ノード・マネージャ・プロセスを停止しません。

  回避策: WebLogic ノード・マネージャ・プロセスをすべて手動で停止します。

- 9446557 -- Windows: EPM System インストーラは、Windows で以前の EPM System インストールをアンインストールした後に再インストールすると失敗します。

  回避策: アンインストール後に、Windows マシンを再起動してから同じフォルダに再インストールします。

- 14315784 -- EPM System アンインストーラを使用中に、一部のコンポーネントが削除されない場合があります。

  回避策: アンインストール後、後で使用するデータを保存してから、残りのコンポーネントを `EPM_ORACLE_HOME` から削除します。

翻訳のサポート

- 9319870 -- 日本語では、EPM System コンフィグレータを実行し、Shared Services レジストリ・データベースのユーザー名およびパスワードでダブルバイト文字(漢字やかな文字)を使用すると、Oracle Hyperion Foundation Services Web サーバーの構成は失敗します。

  回避策: Shared Services レジストリ・データベースのユーザー名およびパスワードをダブルバイト文字を含まないものに変更します。

- 9436054、7678519、8286979、7812803 -- EPM System 製品を英語でインストールし、構成する必要があります。EPM 製品をトルコ語のマシンで使用する場合、Web ブラウザの言語をトルコ語(tr)に設定します。

- 13611014 -- ローカライズされた Win32 マシンの Performance Management Architect 次元サーバーのインストールが IIS 検証エラーで失敗します。

  回避策: デフォルトの Web サイトが英語である(ローカライズされていない)ことを確認します。また、デフォルトの Web サイトの索引が 1 であることを確認します。

- 13621721 -- ブラウザ・クライアントのユーザー・インタフェース画面をノルウェー語で表示するため、ブラウザ・ロケールを「no」に設定する必要があります。Internet Explorer で、カスタム・ロケールを「no」に設定する必要があります(ロール・ロケールとして既存の「nn_NO」または「nb_NO」を使用できません)。Firefox では、ロケールとして「NO」を選択します。

- 13783005 -- Microsoft Office 2007/2003 の一部のローカライズされたバージョンで、Oracle Hyperion Smart View for Office パネルのスマート・クエリー・メニュー・アイテムが見つかりません。

  回避策: Microsoft Office のプライマリ相互運用機能アセンブリを適用します。

Foundation Services

Shared Services

- 8205578 -- Shared Services をアンインストールする場合、すべての構成タスクが EPM System コンフィグレータに表示されるとはかぎりません。

  回避策: 既存の EPM System 製品を再インストールし、EPM System コンフィグレータを再起動します。

- 11685769 -- Oracle データベースの場合、次の手順を実行すると、エラーが表示され、EPM System コンフィグレータが閉じられます:

  1. EPM System コンフィグレータで、EPM System コンフィグレータのレジストリの「データベース構成」ダイアログ・ボックスにデータベース情報を入力し、「次へ」をクリックします。「製品の選択」パネルが表示されます。
  2. 「戻る」をクリックします。レジストリの「構成」パネルが表示されます。
  3. 接続情報は変更せずに、「次へ」をクリックし、「前に構成された Shared Services データベースに接続」を選択します。

     回避策: EPM System コンフィグレータを閉じて、レジストリ・データベースを再作成します。

Performance Management Architect

- 9446072 -- Oracle Hyperion EPM Architect データベースとインタフェース・データ・ソース構成用に EPM System コンフィグレータを実行する際、SQL Server

の名前付きインスタンスを使用する場合は、固定ポートを指定する必要があります。

Smart View

- 8225209、8304976 -- EPM System 製品をインストールしていないマシンに Smart View をインストールする場合、Smart View が適切にインストールされません。

  回避策: Smart View を再度インストールします。

- 9195279 -- Windows 2003: EPM System インストーラの実行時、Smart View で MSXML6 モジュールの Windows Server 2003 R2 へのインストールに失敗します。このため、「オプション」ダイアログ・ボックスを開こうとすると、Excel 2003 が終了します。

  回避策: `C:/oracle/SmartView/bin/msxml6.msi` を手動で実行します。

- 9355339 -- Smart View をドイツ語ロケールで実行すると、`"objekt Smart View Extension Activator Konnte nicht erstellt werden...."`というメッセージが表示されます。

  回避策: .NET が正しくインストールされていることを確認します。

- 9360477 -- 外部ドライブが接続されている場合、EPM System インストーラでは Smart View が外部ドライブにインストールされ、ローカルの C:\ドライブにはインストールできず、最終使用日は更新されません。

  回避策: Smart View のインストール時、外部ドライブを切断します。

- 9526875 -- Smart View クライアントが Shared Services プロバイダ URL に接続しません。接続の検証に、Internet Explorer のデフォルト・タイムアウトより長い時間がかかります。

  回避策: Internet Explorer のタイムアウトを再設定します:

  1. 「スタート」、「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。regedit と入力して「OK」をクリックします。
  2. Windows レジストリの次のキーを検索してクリックします:

     ```
     HKEY_CURRENT_USER/Software/Microsoft/Windows/CurrentVersion/
     Internet Settings
     ```

  3. 「編集」メニューで「新規」、「DWORD 値」の順にクリックします。
  4. KeepAliveTimeout を入力してから、[ENTER]を押します。
  5. 「編集」メニューで「修正」をクリックします。
  6. タイムアウト値(ミリ秒)を入力し、「OK」をクリックします。たとえば、タイムアウト値を 2 分に設定するには、120000 と入力します。
  7. Internet Explorer を再起動します。

     新規のタイムアウト設定を更新するには、Excel の再起動も必要になる場合があります。

- 13530466 -- EPM Workspace ユーザー・インタフェースから 64 ビット・バージョンの Smart View を選択してインストールできません。

  回避策: EPM Workspace ユーザー・インタフェース以外の場所から 64 ビット・バージョンの Oracle Hyperion Smart View for Office をインストールします。

Essbase

Essbase サーバー

- 9789002 -- ARBORPATH がマップ済ドライブを指す場合、OPMN では Essbase を起動できません。

  回避策: ARBORPATH をマップ済ドライブに 指定しないでください。

- 10305367 -- 新しい Linux マシンでは、Essbase がインストール後に起動しない可能性があります。libstdc++ファイルに関するエラー・メッセージが返される場合があります。例:

  `./ESSCMD: 共有ライブラリのロード中にエラーが発生しました: libstdc++.so.5: 共有オブジェクト・ファイルを開けません: 該当するファイルまたはディレクトリがありません`

  回避策: `compat-libstdc++`をインストールします。

  1. compat-libstdc++のインターネット検索を実行します。
  2. 自分の環境に適したダウンロード(SUSE Linux または Red Hat Linux、32 ビットまたは 64 ビットなど)を見つけます。
  3. ファイルをインストールするための手順に従います。
  4. Oracle Essbase をインストールします。

- 11716777 -- 集約ストレージ・テーブルスペース・ファイルの場所を正確に 496 バイトの長さのパスで作成すると、プログラムが異常終了する可能性があります。

Administration Services

- 7461473 -- Administration Services ポートを修正すると、Oracle Hyperion Shared Services でメニュー・コマンド「アクセス権の割当て」が表示されなくなります。

  回避策: Oracle Essbase Administration Services コンソールにログインし、該当するエンタープライズ・ビューで「すべて登録(I)」コマンドを使用します。「Essbase サーバー」、「HOSTNAME」、「アプリケーション」項目の順に移動します。

Integration Services

- 7253757 -- Windows 2003 SP 1 では、インストール後に Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラが Windows サービスを使用して Integration Services のサービスを開始および停止します。Windows サービス・コンソールでサービスが停止された後も、`olapisvr.exe` が依然として実行されている場合があります。

  回避策: `olapisvr.exe` および `olapisvc.exe` プロセスを手動で停止します。

Planning

- 16446154 -- HPUX-64 環境で単一の管理対象サーバーにすべての製品を配置する際、Planning で PermGen 領域が不足する可能性があります。

  回避策: 独自の JVM に固有の管理対象サーバーに Oracle Hyperion Planning を配置します。

Reporting and Analysis

全般

- 9232850 -- `startRaFramework.bat` で、Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションと Reporting and Analysis エージェントの両方が起動されます。両方を起動するための依存性を削除する必要があります。

  回避策:

  - Reporting and Analysis エージェントを起動するには、次を実行します

    ```
    MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/bin/
    startRaFrameworkAgent.bat
    ```

  - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションと Reporting and Analysis エージェントの両方を起動するには、次を実行します

    ```
    MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/bin/
    startRaFramework.bat
    ```

Dashboard Development Services

- 7117352 -- Oracle Hyperion Dashboard Development Services が Windows Vista にインストールされると、EPM Oracle ホーム・ディレクトリの下のフォルダが読取り専用になります。

  回避策: EPM Oracle ホーム・フォルダ・セキュリティにドメイン・ユーザーまたはグループを追加し、ユーザーに書込み権限を割り当てます。

EPM Workspace

- 14037250 -- WebSphere 7.0.0.21 の使用時に EPM Workspace にログインできません。

  回避策: 次の手順を完了します:

  1. 「セキュリティ」、「グローバル・セキュリティ」、「Java Authentication」、「Authorization Service」、「JAAS - J2C 認証データ」の順に選択します。データソースを選択してパスワードを入力します。すべてのデータソースに対して、この手順を繰り返します。
  2. 「リソース」、「JDBC」、「データ・ソース」の順に移動します。データソースを選択してから、「追加プロパティ」、「接続プール・プロパティ」、「接続プール・カスタム・プロパティ」、「すべてのプロパティの削除」の順に選択します。「保存」をクリックし、この手順をすべてのデータソースに対して繰り返します。
  3. 「システム管理」、「ノード・エージェント」の順に選択します。ノードを選択して、「ノード上の全サーバーの再起動」をクリックします。

Financial Reporting

- 10053116 -- Financial Reporting Studio インストーラにより、インストールの設定タスクの完了後の短時間に継続して実行される可能性がある個別のコンソール・ウィンドウが起動されます。これは予期される通常の動作です。

Production Reporting

- 7165746 -- Oracle Hyperion Shared Services レジストリを使用して URL を格納するかわりに、Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションを配置する場合に Oracle Hyperion SQR Production Reporting ポートレットが `portlet.xml` を使用します。

  回避策: EPM Workspace Web アプリケーションの `portlet.xml:` の次のポートレット値を更新します:

  - `FOUNDATION_HOST` - EPM Workspace Web サーバー・マシンのホスト名。
  - `FOUNDATION_PORT` - Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Web サーバー・マシンのリスニング・ポート。デフォルト値は 19000 です。

Web Analysis

- 13376284、13813169 -- Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework および Web Analysis Web アプリケーションを別のマシンにインストールする場合、Web Analysis を起動できません。

回避策: Web Analysis を実行しているマシンに Oracle Hyperion Reporting and Analysis サービスをインストールし、EPM System コンフィグレータを使用して Web Analysis を再構成します。

1. Reporting and Analysis Framework の「データベースの構成」タスクを選択します。
2. 「前に構成したデータベースに接続」を選択します。
3. Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework データベースの詳細を指定します。

Financial Performance Management アプリケーション

Calculation Manager

- 13423478 -- IBM Websphere の Calculation Manger Web レポートを開始する場合、次の例外が起動ログ・ファイルに表示されます: `ManagedConnection の'cleanup'を呼び出せません。`

Financial Close Management

- 11831948 -- Financial Close Management のインストールの場合、新規インストールに SOA をインストールおよび構成した後、または SOA をメンテナンス・リリースのインストール用にアップグレードした後、My Oracle Support から入手可能な次のパッチを Oracle Fusion Middleware に適用します:
  - 11837635 - 11.1.1.4.0 上の基本バグ 11063511 用の PSE (PSE #527410)。

    このパッチの場合は、`ORACLE_HOME` 環境変数を `../Oracle/Middleware/Oracle_SOA1` に設定します。
  - 11864201 - 11.1.1.4.0 上の MLR バグ 11864201 用の PSE (PSE #536496)

    このパッチの場合は、`ORACLE_HOME` 環境変数を `MIDDLEWARE_HOME/oracle_common` に設定します。

  パッチを適用する前に、Financial Close Management 管理対象サーバー、SOA Server およびすべての管理対象サーバーをシャットダウンします。パッチの適用方法の詳細は、パッチの Readme を確認してください。

- 13784940 -- 分散環境で Financial Close Management および SOA を配置中に、「SOA に配置」タスクに失敗する場合、次のようなメッセージに対して `configtool.log` ファイルを確認します:

```
        Caused By: weblogic.descriptor.BeanUpdateRejectedException: A JNDI name
already exists at
weblogic.jndi.internal.ForeignJNDILinkManager.checkDuplicate(ForeignJ
NDILinkManager.java:137)
```

回避策: 上記のようなメッセージが表示される場合、Oracle WebLogic Server を再起動し、EPM System コンフィグレータで、「SOA に配置」を再選択します。

- 14221759 -- Financial Close Management のデータベース構成を再開する際、既存のデータベースで表を削除および再作成するために EPM System コンフィグレータを使用しないでください。かわりに、新しい空のデータベースに対して構成する必要があります。

- 16590013 -- Oracle HTTP Server が Oracle Hyperion Financial Close Management とは異なるホスト上にある場合、次のタスクを実行して `MOD_WL_SOA_OHS.CONF` を手動で変更する必要があります:

  1. `OHS/Webserver` ボックスで、`EPM_ORACLE_INSTANCE/httpConfig/autogenerated/soa/mod_wl_ohs.conf` をコピーしてその名前を `mod_wl_soa_ohs.conf` に変更します。
  2. `mod_wl_soa_ohs.conf` をテキスト・エディタで開き、`soa_server_host:soa_server_port` および `admin_server_host:admin_server_port` を SOA ホストおよびポートと、WebLogic 管理サーバーのホストおよびポートの実際の値で置き換えます。
  3. 変更した `mod_wl_soa_ohs.conf` ファイルを `EPM_ORACLE_INSTANCE/httpConfig/ohs/config/OHS/ohs_component` フォルダにコピーします。
  4. テキスト・エディタで、`EPM_ORACLE_INSTANCE/httpConfig/ohs/config/OHS/ohs_component` フォルダの下の `httpd.conf` を開き、次の行を `<VirtualHost>`タグ内に追加します:

     ```
     Include "conf/mod_wl_soa_ohs.conf"
     ```

     例:

     ```
             <VirtualHost *:19000>
       Include "conf/mod_wl_ohs.conf"
       Include "conf/epm_online_help.conf"
       Include "conf/epm_rewrite_rules.conf"
       Include "conf/epm.conf"
       Include "conf/mod_wl_soa_ohs.conf"
     </VirtualHost>
     ```

  5. OHS インスタンスを再起動します。

Financial Management

- 8560293 -- Microsoft Windows 2003 SP2: 一部の Windows 2003 SP2 インストールでは、Financial Management または Oracle Hyperion Financial Reporting からの接続中に、クライアントで「アクセス拒否」が発生することがあります。クライアント・マシンのイベント・ログに、エラー・メッセージ「一般のアクセスが拒否されました」が示されます。

回避策: 次の DWORD 値が存在しない場合は、Windows レジストリに追加します:

1. レジストリ・エディタで、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Microsoft\Windows NT\Rpc の下に、新しい DWORD 値を Server2003NegotiateDisable という名前で追加します。
2. 「Server2003NegotiateDisable」を右クリックして、「変更」をクリックします。
3. 「値のデータ」に「1」を入力して、「OK」をクリックします。

   注意: この設定によりバインド時間ネゴシエーションおよび複数転送構文ネゴシエーションを使用不可にします。
4. Windows のレジストリ・エディタを終了して、コンピュータを再起動します。
5. 文キャッシングを有効にします。(構成値はゼロにできません。推奨される値は 1 から 10 です。)
6. 次のレジストリ値を編集します: `Hkey_Local_Machine\Software\Oracle\Key_Homename\Oledb` 値名: `StmtCacheSize` 値(小数): `1`(ここで、`Key_Homename` は該当する Oracle ホームを指します)。
7. HFM アプリケーション・プロセスを停止して再起動します。

   また、64 ビットのオペレーティング・システムで System 11 と 10g データベースを一緒に使用する場合、すべての Financial Management サーバーの Oracle OLE プロバイダが少なくとも 10.2.0.4.21 以上であることが必要です。32 ビットと 10g の組合せの場合、OLE プロバイダは、少なくともデータベース・サーバーと同じバージョンであることが必要です。32 ビットまたは 64 ビットを実行していて、11.1.0.6 か 11.1.0.7 の OLE プロバイダを使用する場合は、Oracle Database Client 11.1.0.7.33 以上にアップグレードする必要があります。

- 10640500 -- Financial Management に Oracle Database Client 10.2.x または 11.1.x を使用する場合は、すべての Financial Management アプリケーション・サーバーで Oracle OLE DB の `StmtCacheSize` レジストリ設定を 10 にする必要があります。これは、Oracle Provider for OLE DB のメモリの問題によるものです。レジストリの設定パスは次のとおりです: `Hkey_Local_Machine\Software\Oracle\Key_Homename\Oledb`。11.2.x の Oracle Database Client の場合は変更しないでください。

  高いメモリー使用率を解決するには:

  1. 文キャッシングを有効にします。(構成値はゼロにできません。推奨される値は 1 から 10 です。)
  2. 次のレジストリ値を編集します: `Hkey_Local_Machine\Software\Oracle\Key_Homename\Oledb` 値名: `StmtCacheSize` 値(小数): `1`(ここで、`Key_Homename` は該当する Oracle ホームを指します)。
  3. HFM アプリケーション・プロセスを停止して再起動します。

また、64 ビットのオペレーティング・システムで System 11 と 10g データベースを一緒に使用する場合、すべての Financial Management サーバーの Oracle OLE プロバイダが少なくとも 10.2.0.4.21 以上であることが必要です。32 ビットと 10g の組合せの場合、OLE プロバイダは、少なくともデータベース・サーバーと同じバージョンであることが必要です。32 ビットまたは 64 ビットを実行していて、11.1.0.6 か 11.1.0.7 の OLE プロバイダを使用する場合は、Oracle Database Client 11.1.0.7.33 以上にアップグレードする必要があります。

- 13650082 -- Financial Management が Windows 2008 Server で実行されている場合、削除対象としてマークされているレジストリ・キーに不正な操作を試行しましたというエラーが発生する場合があります。

  回避策: グループ・ポリシー・エディタを使用して、ツリーをコンピュータ構成、管理テンプレート、「システム」、UserProfiles の順に展開します。ユーザーのログオフ時にユーザー・レジストリを強制的にアンロードしないのオプションを「使用可能」に変更して、変更を有効にするためにマシンを再起動します。

- 13742721 -- Financial Management データベースとして DB2、データベース通信プロトコルとして SSL を使用する場合、Financial Management でデータベースの接続に失敗する場合があります。

  回避策: すべてのアプリケーションおよび Web サーバーで、2 つの新しい NT レジストリ値および 1 つの UDL ファイルを作成します。

  キー名: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Financial Management\Server`

  値名: `SystemDataLinkFile`

  値タイプ: `REG_SZ`

  値: `<path to UDL file>`

  値名: `UseUDLFile`

  値タイプ: `DWORD`

  値: `1`

- 13794174 -- Internet Explorer 8 で、互換表示設定がオンの場合、Financial Management のログイン時に次のエラーが表示されます: 現在の互換性設定はサポートされていません。このWebページを実行する前に互換性ビューを無効にしてください。

  回避策: 互換表示設定をオフにします。

- 13836030 -- オペレーティング・システムのユーザー・ログイン情報が変更されると、Financial Management が動作を停止します。

  回避策: DCOM ユーザー・ログイン情報を Windows 構成で格納されます。DCOM ユーザー・ログイン情報を変更する場合、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータを使用して、Oracle Hyperion Financial Management DCOM を再構成する必要があります。

FDM

- 14057387 -- FDM Web を分散環境のみでインストールする際、Web Configuration Manager の「スタート」メニューが不完全です。

  回避策: 「スタート」メニューを修正するには、次の手順を実行します:

  1. `WebConfigManager.exe` を右クリックします。
  2. 「ショートカットの作成」を選択し、ショートカットを `<EPM_ORACLE_HOME>\products\FinancialDataQuality\WebServerComponents\WebConfigManager` の下の場所に方向付けます。

     ショートカットのタイトルを「FDM Web アプリケーションの構成」になるように設定します。
  3. ターゲットを`<EPM_ORACLE_HOME>\products\FinancialDataQuality\WebServerComponents\WebConfigManager\WebConfigManagerDM.exe` に設定します。

- 16614312 -- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のみをインストールする際、HFM アダプタ・タスクが失敗します。

  回避策: .Net 4.0 を手動でインストールしてから、HFM アダプタ構成タスクを再実行します。

Provider Services

- 13423478 -- Oracle Hyperion Provider Services Web レポートを開始する場合、次の例外が起動ログ・ファイルに表示されます: `ManagedConnection` の`'cleanup'`を呼び出せません。

  回避策: IBM Fix Pack 7.0.0.23 (リリース予定日は 2012 年 5 月)を適用します。

Strategic Finance

- 16231568 -- Oracle Hyperion Strategic Finance クライアントを、Oracle Hyperion Strategic Finance Server もインストールされているシステムからアンインストールする際、共通コンポーネントの削除オプションを選択しないでください。このオプションを選択するとシステムが使用できなくなる可能性があります。

Disclosure Management

- 16422195 -- SSL オフロードでは、Oracle Hyperion Disclosure Management および Web Analysis について次の手動手順が必要です:

  1. `ESSBASE_ORACE_INSTANCE/httpConfig/ohs/config/OHS/ohs_component/mod_wl_ohs.conf` を編集して、Oracle Hyperion Web Analysis およびマッピング・ツールの場所(`/WebAnalysis` and `/mappingtool`)に対して `WLPRoxySSL OFF` を削除またはコメントします。

2. WebLogic コンソールで、ドメイン名をクリックし、「Web アプリケーション」タブをクリックしてから、「WebLogic プラグイン有効」を選択します。
3. サービスを再起動します。

ドキュメントの更新事項

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの EPM System ドキュメント領域(http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html)からダウンロードまたは表示できます。EPM System Documentation Portal(http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html)も使用でき、EPM Supported Platform Matrices、My Oracle Support およびその他の情報リソースへのリンクもあります。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個別の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があり、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットを HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

ドキュメントのフィードバック

製品のドキュメントに関するフィードバックを次の電子メール・アドレスに送信してください:

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトで EPM Information Development をフォローしてください:

- YouTube - http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts
- Google+ - https://plus.google.com/106915048672979407731
- Twitter - https://twitter.com/HyperionEPMInfo
- Facebook - https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。EPM System 製品は、製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されているアクセシビリティの機能をサポートします。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System Documentation Library (http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html)にあります。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

著作権情報

EPM System Readme, 11.1.2.3.000

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM